

# CONSERVATION VOLUNTEERS Vol. 11

発行：特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク（略称：JCVN）

提案 JCVNのこれからの展開 p1

報告 リーダートレーニング研究会 p2

総会報告 p4

リーダーミーティング2015の報告（続き） p5

お知らせ リーダートレーニング研究会の日程、ほか p8

## 提案 JCVNのこれからの展開

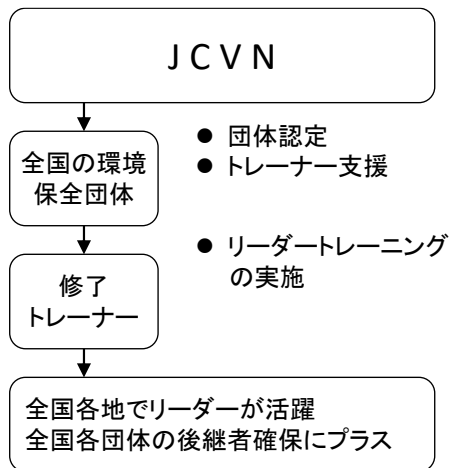
塚本 竜也（NPO法人トチギ環境未来基地代表理事、JCVN 理事）

これから JCVN は日本の環境保全活動の中でどのような役割を担い、また JCVN 自体もどのように発展していくのか、ということに関してこれまでの理事会、総会等でも検討を重ねてきました。

今回の理事会、総会において理事の一人として提案させていただきましたのでその内容について説明させていただきたいと思えます。

JCVN は設立から現在まで環境保全リーダーの養成に力を入れてきました。主催事業として各種のリーダー研修を実施し、研修の手法やツールも体系的にまとめ質を高めてきました。また、シンポジウム等を通じて、現場リーダーの重要性について啓発活動も展開してきました。年数回実施しているリーダートレーニング研究会では、多様な皆様と意見交換をしながらリーダートレーニングのあり方について議論を深めてきました。

そして今、これまでの積み重ねの先に何を描くか、ということに改めて考える時期にきています。様々な方向性があると思えますが、個人的には次の取り組みが重要であると考えています。



団体支援・リーダーのステータス向上のイメージ図

### 【定量成果】

- ・認定団体の数
- ・終了リーダーの数
- ・終了リーダーが運営する現場の数

### 【定性成果】

- ・環境保全活動リーダーを増やすことによる、日本の環境保全活動の質の向上
- ・ノウハウの充実による、リーダー育成過程の短期化、効率化、体系化

## ① 団体支援

全国の団体がリーダートレーニングを実施できるよう、団体の支援に力をいれる

活動を安全に、楽しく、有意義に実施できるリーダーの必要性はますます高まっています。例えば森林ボランティア団体だけでも国内に3,000団体を超えるほどになりました。いずれの団体にも基本を押さえた現場リーダーの存在は不可欠です。独自の研修を取り入れている団体もちろん多くあると思いますが、内部に研修制度を持っていない団体も少なくありません。多くの団体が最低限の基準をクリアした研修を実施することができるようになることが、リーダーの数を増やすことにおいては効果的です。JCVNは各団体でリーダートレーニングを担うスタッフ向けの「トレーナー研修」の実施と、JCVNの提示する基準を満たす団体を認定団体として認証し、貢献する方向性があると考えます。

## ② リーダーのステータス向上

リーダートレーニング受講者への修了証を発行。リーダーの社会的位置づけ、役割、意識を高める  
 トレーニング講座を受講した人たちが現場で活躍できるようになることを支援していきます。  
 JCVNは、研修の内容を標準化、体型化をしたうえで、研修プログラムとして単元化をし、認定団体が実施するトレーニングで最低限の単元を受講した人には修了証の発行を行います。修了証

を発行することで、リーダーとしての自覚をより強く持って活動できるようになることを期待しています。また、活動メンバーの高齢化等に悩む団体と修了者をつなげ、活動をつないでいくことも意義のある活動です。

長期的にはリーダートレーニング研修を、初心者、中級者、上級者（トレーナーとしての資格を有する）と段階に分け、それに応じた修了証を発行していくのも良いと考えます。

質の高い環境保全リーダーが各地に増えていくことで、日本の環境保全活動の成果は確実に高まっていきます。次のフェーズとしてはリーダーを育むノウハウを全国に広げていくことで、日本の環境保全活動の底上げを行い、環境保全に貢献していけたらと思います。

塚本理事からの提案を受け、理事会では下記のようなコメントが出され、実現に向けて活動を進めることとしました。

- ・団体会員の増加はとても良い。
- ・団体間のコミュニケーションが重要になる。
- ・団体間の理解を深めることが大切。
- ・まずは、トレーナーレベルから。
- ・今のJCVNの会員団体間で構築していこう。
- ・1級、2級、3級と階層があると良い。
- ・認定ではなく修了となる。

## 報告 リーダートレーニング研究会

### ■リーダーのもつべきスキル

志賀 壮史（JCVN理事／NPO法人グリーンシティ福岡）

<概要>

#### 第13回「リーダーのもつべきスキルⅠ」

日時：2015年6月18日 18:30～20:30

場所：あすみん

参加者数：会員6名、非会員2名

#### 第14回「リーダーのもつべきスキルⅡ」

日時：2015年8月20日 18:30～20:30

場所：あすみん

参加者数：会員3名

リーダートレーニング研究会の第13回、14回

では、育成したい現場リーダーのイメージを「スキル総括表」の形式で整理することを目指しました。環境保全活動の現場リーダーって結局なんだ？を考えた研究会。2回分の様子をまとめてお伝えします。

\* \* \* \* \*

6月18日の第13回では、「現場リーダー」に持っていてほしいスキルや姿勢を数多く出し合うことから始めました。少人数で付箋紙に書き出したものを統合し、見出しを付けていきます。



図：「リーダーのもつべきスキル」を出し合う

その結果、7種類 100以上のスキルや姿勢が得られました。以下に主なものを抜粋して挙げます。

表：「リーダーのもつべきスキル」の抜粋

種類	具体的なスキル
作業できるか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業方法、手順を説明できるか？</li> <li>道具を正しく使えるか？</li> <li>準備運動と整理体操ができるか？</li> </ul>
環境理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の歴史等を紹介できるか？</li> <li>作業の目的を理解しているか？</li> <li>近隣に気を配れるか？</li> </ul>
基本姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>時に厳しく指示できるか？</li> <li>笑顔になることができるか？</li> <li>体調管理できているか？</li> </ul>
民主的なコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>他人の話を聴くことができるか？</li> <li>差別をしないで対応できるか？</li> <li>作業進捗など情報共有できるか？</li> </ul>
計画・進行	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な道具を準備できるか？</li> <li>適切に休憩を呼びかけられるか？</li> <li>対象にあわせた作業をデザインすることができるか？</li> </ul>
関係性構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつをすることができるか？</li> <li>参加者を名前で呼べるか？</li> </ul>
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>天候の判断ができるか？</li> <li>危険な動植物を見分けられるか？</li> <li>トラブルに冷静に対応できるか？</li> </ul>

続く8月の第14回は、出席が会員3名(朝廣、小森、志賀)だけだったこともあり、前回で得られた100以上のスキル一覧を精査しつつ、英国BTCVの現場リーダーのスキル総括表や日本国内の自然学校における人事考課リスト(スタッフの持つべき能力の一覧)と比較しながら、熱のこもった(!)ディスカッションを行いました。

まず、英国BTCVのスキル総括表との比較では、以下の特徴やポイントが挙げました。

＜「学習」に関するウェイトが大きい＞

英国BTCVでは環境保全活動の現場で、植物の知識や道具の使い方、地域の歴史などを学んでいくことが、ボランティアのモチベーションにつながるとの考えが大きく、学習の機会を提供できるかどうか現場リーダーの大きな役割となっています。

＜日帰りリーダーの権限が限定的＞

大きな組織でたくさんの保全活動メニューを展開しているBTCVでは、リーダーは「国際リーダー」→「合宿リーダー」→「日帰りリーダー」と明確に区分されており、それぞれの権限の大きさが異なります。日本の環境保全活動では「現場リーダー」＝「責任者」兼「マネージャー」兼「指導者」のようになっていて「なんでも」やらなくてはいけない状態がほとんど。これが次世代育成のハードルになっていることも考えられます。

＜容認できない行為に対する手続き＞

BTCVでは非常にわがままであったり、コントロールできない状況を作ったり、他のボランティアやスタッフの安全に関わるような行為を行うボランティアへの対応方法が定められています。最終的な「退場」も含めた段階的な対応手順には見習うべき点があります。

また、国内の自然学校の草分け的存在であるホールアース自然学校の人事考課リストとの比較では、職員評価とリーダー育成とで相違点はあるものの、「自ら学ぶ意欲、成長する気持ちがあるか」を評価している点を参考にしたい旨の意見が出ました。

\* \* \* \* \*

2回の研究会で得られたスキルの一覧を、より使えるものにしていくために、次回の第15回までに、グルーピングや階層の再整理、内容によっては時系列による整理や重要性による仕分けなどを行っていきます。次回のリーダートレーニング

研究会にご期待ください！(2015年10月14日開催予定)

\* \* \* \* \*

なお、このスキル総括表をもとに JCVN のリーダー研修をさらに充実させていくようアイデアを練っています。

一つは実習の充実。ツールトークや課題解決ワークなどの定番実習に加え、スキル総括表に出てきた「地域の歴史等を紹介できるか?」「体調管理できているか?」「他人の話を聴くことができるか?」などの個々のスキルについて、楽しく学んでいくことができる実習を準備したいと考えています。

また、二つ目は筆記試験。ペーパーテストではリーダーの技量があるかどうか計れるわけがない!との声が聞こえてきそうです。しかし、ともしれば、根性論や人格次第といった議論になりかねないリーダー育成について、可能な範囲で言葉にしていくことは大切なように思います。

例えば、朝のオリエンテーション時のあいさつ、作業説明、準備体操の望ましい組み立てであるとか、暑い時期の休憩時間のとり方に対する考え方、初心者や経験者が入り交じるグループでの作業の注意点など、実践的な教材を作れるよう検討を重ねていきたいと思っています。

## 報告 総会

### ■ 総会報告

平成27年6月18日に、特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワークの第7回総会を行いましたので、ご報告いたします。

#### 概要

日時：平成27年6月18日(木)15:35~17:30  
 場所：福岡市NPOボランティア交流センター  
 (あすみん)  
 (福岡市中央区大名2-6-46 福岡市立青年センター5F)  
 出席者数：理事7名、団体会員3名  
 計7名+3団体  
 欠席者数：正会員8名

#### 審議事項：

議案第1号 平成26年度活動内容  
 議案第2号 平成26年度決算  
 議案第3号 平成27年度活動予定  
 議案第4号 平成27年度予算  
 その他

#### (1) 開会、成立確認、議長選出

定刻になり重松敏則理事長より開会のあいさつ、その後、定款27条により本日の出席者7名と3団体、計7名と3団体は当団体正会員数15名と3団体の5分の1を超えており、本総会は成立しているとの報告があった。また、定款第26条に従い、理事 朝廣和夫が議長に満場一致で選

任され、各議案について審議した。また、議事録署名人として重松敏則、小森耕太を選出した。

#### (2) 議事の経過の概要及び議決の結果

##### ・第1号及び2号議案について

資料をもとに平成26年度の事業報告および決算報告がなされた。続いて、監事 毛利宗孝が諸事情により欠席のため、事前に志賀理事が受けた監査報告(平成27年6月13日に実施)について代理で報告を行なった。第1号議案・第2号議案に関し、志賀理事より講師派遣の未報告があることが指摘された。これらの内容を受けて議案第1号及び2号について一部修正し採決を行ったところ、全員一致で承認された。

##### ・第3号及び4号議案について

資料をもとに平成27年度の活動予定および予算案の説明がなされ、各事業の概要案について意見交換を行った。定例で行っている、1) 会報の発行、3) リーダートレーニング研究会、そして、4) リーダーミーティング事業を本年も実施することとした。また、昨年度から検討を続けている2) リーダーズガイドもしくはボランティアガイドの発行について、研究会の成果を用いながら「リーダー育成に関する出版事業」として、今後継続検討していくことで合意した。また、塚本理事より6) JCVNのリーダー・トレーナー団体の認定プログラムの検討について提案され、出版事業と合わせて検討を開始することで了承された。

平成27年度収支の経常収益について、受け取り寄付金の見込みとして、現在、試験的に実施している重松理事長の採取したハチミツの販売経費からの寄付10万が見込まれるため追加し、経

常費用の人員費について10万追加することで確認された。上記議論を受け、議案第3号および4号について一部修正を行った上で採決を行ったところ、全員一致で承認された。

## 報告 【ワールドカフェとパネルディスカッション】

メインコーディネイト 志賀壮史 (NPO 法人グリーンシティ福岡、JCVN 理事)

先の会誌10号で、2015年2月11日に福岡県福岡市天神の福岡ビルの大ホールで行った「災害ボランティアの現場リーダー」のシンポジウムの基調講演、話題提供の報告をしました。11号では誌面不足で報告できませんでした、話題提供後に行われた「ワールドカフェとパネルディスカッション」の報告をいたします。

### 【話者】

西尾雄志 (日本財団学生ボランティアセンター(Gakuvu)代表理事)

水野 匡也 (竹田市社会福祉協議会)

塚本竜也 (NPO 法人トチギ環境未来基地代表理事、JCVN 理事)

朝廣和夫 (JCVN 副理事長/九州大学芸術工学研究院)

~~~~~

### 【ワールドカフェ 第一ラウンド】

ワールドカフェとは、テーブルを囲みぺちゃくちゃしゃべり、テーブルを20分おきに代わりながら参加者間の話題を広げる手法です。最初のお題は、「一部、二部の話を聞いて印象に残ったこと」とし、20分話した後に、席を交代してさらに20分行いました。



### 【パネルディスカッション】

その後、パネラーが部屋の中央に丸く椅子を並べ集まり、朝廣が質問者になり議論しました。

【各テーブルで、リーダーについて、どのような

話がありましたか？】

小森：午前中の西尾さんの「贈与」の話。権力関係と交換関係にあることを気をつけないといけない。例えば、障害者の場合、前者になるかもしれない。現場リーダー、コーディネーターがいると、そのような関係が整理できるかも。

西尾：上がったテーマは、リーダーは様々なタイプがあり、カリスマリーダーだと二代目ができにくいよねということ。学生のコミュニケーション能力について、ITの普及で養成される能力が高くなりすぎて多様化してしまっている。仲良くなることを作り出すのもコーディネーターの役割である。



水野：活動することが被害者にどのような影響を与えるのかという話題や、自分たちがどのような活動ができるのか、NPOや行政の活動、地元のローカルルール（自治会長に話を通すなど）も活動をまわすには知っておくことが大切。

塚本：リーダーは、重要だけどやりたい人は少ない。学生、声が小さい。ボランティアなのに、そんな哲学的なことを考える必要があるのか、という話題が出ました。

朝廣：少し、まとめると、リーダーはボランティアや地元を繋ぐ役割が必要。ローカルルールや、

技術、ノウハウをコーディネートしないとイケないが、災害ボランティア同士は、お互いを知る機会が少ない。地元、ボランティア同士のことを知る機会が、災害ボランティアは特に少ない傾向がある。そういう中でリーダーは、責任の重い、厳しい環境に課題がある。コミュニケーションの方法も、地元の方法と、若者の使用するメディアの違いもあり、社会的課題があると感じました。では、二順目いきましようか？

**小森:** 顔見知りでない人と作業をすることも貴重な体験。僕は、苦手なので、早めに自己紹介をするようにしています。

**西尾:** リーダーは主に4つのタイプがあり、1つはカリスマタイプ、2つ目は事務能力が傑出し仕事の割り振りが上手なタイプ、3つ目はとにかく人の話を傾聴し民主的に対応するタイプ、最後は、カリスマも事務能力もないけど愛され人が助けたくなるようなタイプ（ロボコンなど）。自分の得意な部分でリーダーをし、ない部分を副リーダーに頼み複数リーダーで活動するのが良いと感じています。

**水野:** ふと自治会のことが浮かびました。多くは順番制で、自分の時は何も起こらないようにと思ったり、一方、お互いの助け合いが出てくる。ボランティア活動も気をつけなければならないことがあり、リーダーにお願いする範囲をもう少しはっきりさせたほうが良い。活動を行う現場リーダーなのか、ボランティアのお世話をするセンターの全体的なリーダーなのか、そこがはっきりされていない。それで、求められる資質が変わるし、新たに関る人も出てくると思います。

**塚本:** グループ型の活動をしていると、「早くしなきゃ」という思う一方、被災者の生活を考えて、ゆっくり作業される方もいて、そのような多様性が大事だと思います。

**朝廣:** リーダーの定義が実は不明確。どういう役割、責任を持っているのかが不明。リーダータイプは複数あり、男性・女性的な発想の大切さも指摘いただきました。第3ラウンドに入る前に、現場がボランティア同士を知らない状況で、どうすればよいのか？

**小森:** 農村エリアで都市からボランティアがこられるので、毎回の活動でお互いの話をする機会を設け、理解を広げた。その時は、「もっと作業をすべき」と感じる人もいるが、「次、何をするのか。ボランティアを受け入れるのか」、というこ

とを考える機会になり、後々、効果が出てきた。作業以外の役割が、ボランティアの人たちにはあると思う。ボランティアの働いている姿を見て、農家の人たちは、「よし、自分たちもがんばろう」と思い、ボランティアに頼まずに自分達で復旧しようという思いに繋がっている。

**西尾:** 知らない人たちとチームとしてどうするかは重要なポイント。50~100人だとチームビルディングができない。ラグビー部、防衛学校など、既にチームが出来上がっているところが来てくれると、さびしい思いをする人がいる一方、作業効率がよくなる。その分時間を作り、特に短期のボランティアに対しては、活動の背景、目的、目標をきちんと説明し伝え、共有することが大切。

**水野:** はじめの人は緊張している人がいて、センター側も伝えることが大事。チームで、現場の目標と現状を把握しながら活動すると効率が上がる。日本語で「段取り八分」ということがあるが、事前の準備が重要だと思う。

**塚本:** 災害ボランティアと平時のボランティアの違いは強行スケジュールが多い。そのような中、ボランティアの背景、動機、技能が分からない中で始めるので、リーダーの役割は高度になる。そこを見抜くのは難しい。

**朝廣:** お互い知らない状況をどう解決するのか。大きく、3つ述べていただきました。1つは急ぎの現場かもしれないけれども、ボランティア同士、地元との交流の場を設ける。2つ目は、チームを作ってきてもらおうと効率よく進む。3つ目は、地元の参加、地元は年中行事を行っているので互助体制ができていますので、やはり平時から地元と互助により共有知を作っておくと、いざという時に互助・共助のコミュニケーションが上手くいくと考えられました。

**小森:** 塚本さんの言われていた平時よりも高度なことが求められる現場リーダーの状況について、お互いのことを知る重要性を参加者にきちんと伝えることが重要。急いで作業をしたいのに、ちんたらちんたら、挨拶、準備体操、説明して…という感じになるけど、それが大切なことだということを理解してもらおう作業が大事。

**朝廣:** 貴重なご意見ありがとうございました。あとは、リーダーを育てる為に何をしなければならないのか、という議論が残ったように思います。

#### 【ワールドカフェ 第二ラウンド】

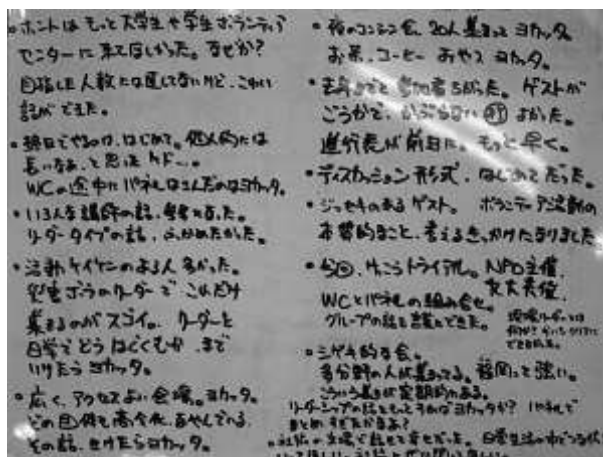
第3ラウンドに入る前に記念撮影が行われ、以

上の話を聞いて、印象に残ったことについて各テーブルで議論が行われました。

【シンポジウムおわりの挨拶】

朝廣：本日は1日ありがとうございました。私の心に残ったことは、午前中、西尾先生から「ボランティアは、心の距離だ」という言葉をいただきました。心の距離を作っていくのがボランティアだと。昔、災害があれば村で何とかしてきた。それが、今でも、人が減ってきているけれども村で何とかしよう。現実には、村では難しく、災害ボランティアが入っていく。村は、普段のお祭りとか近所づきあいの中で心の距離と、技術を培ってきて、それに対応してきた。私たち共助のボランティアは、村の心の距離と技術を共有できていないという状況があり、大きな課題を生んでいるのではないかと考えました。そういう意味で、災害ボランティア活動というのは、災害前から如何に様々な地域と、心の距離と、その技術を共有して、昔ながら行っていたような活動を協働で行うことができるのかということが、大きな課題と思われまます。今回、NPOが主催したことで、学術関係者だけでは議論できないことが、お一人お一人の参加者の中から、たくさんお話を聞かせていただいて共有できたことは良かったと思っております、心より感謝申し上げます。

平田\*：私は、専門的にも、実践的にもボランティア活動を行っておりませんし、今日は大変勉強になりました。私の最大の関心は、「なんで、皆さんがボランティアをやっているか」ということ



ろの本音のところを知りたいと思い、最初の包括的な基調講演でなんとなく分かったかなと思いましたが、皆様の具体的な事例を聞かせていただいて、なんと、楽しそうなことをやっているんだろうと思いました。楽しいだけではダメだということ最初のお話でしたので、公共性は大事、でも、自分の親の面倒を見るのはボランティアではないということで・・・思いましたが、ここら辺は、重要なことだと思います。最後に1つだけ役に立つことを申し上げるとすれば、九州では、風水害もあるし、地震も必ず来ます。皆さんの活躍する場も必ずありますので、日頃の準備を十分にさせていただいて、日常的な地域との繋がりが災害の時に役に立つということだと思います。

志賀：JCVMは、それぞれ普段、NPOや大学で活動していますが、繋がることで人を育てようと、元気に、安全で、楽しく、実りのある活動にして





いきたいと思っています。皆様と、どんどん繋がっていきたいと思っていますので、今後とも、よ

ろしく願います。

\*東京大学 地震予知研究センター長

## お知らせ

## イベント・ボランティア情報

### ●JCVNリーダートレーニング研究会

JCVN では、隔月で環境保全リーダーのためのプログラム研究会を実施しております。リーダーの方、関心がある方、私たちと一緒に活動したい方のご参加お待ちしております。

#### ◇10/14 (水)

#### 環境保全ボランティア活動の運営技術～リスクマネジメント編～

6/18, 8/20に引き続き、スキル統括表をつくるワークショップを行います。今回は特に安全面、リスクマネジメントに関する項目を整理します。

講師：朝廣、進行：小森

とき：18時半～20時半

場所：福岡市NP0・ボランティア交流センター（あすみん／福岡市中央区大名 2-6-46）

参加費（会員・学生）無料（非会員）1,000円

#### ◇2015/12/17

#### 地域を巻き込むには（予定）

#### ●リーダーミーティング

毎年行っている JCVN のリーダーミーティングは 2016 年 2 月 18 日を予定しています。

#### ●関係団体のイベント

#### ◇10/6 (火) ～7 (水)

環境保全活動リーダー研修

※国際ボランティアと一緒に行動するため、英語での進行となります。

とき：10/6 (火) 9時半～7 (水) 15時

場所：えがおの森（八女市黒木町笠原）

講師：塚本竜也（JCVN、トチギ環境未来基地）

詳しくは0943-42-4300（山村塾）まで

#### ◇10/12 (祝)

このす里山くらぶ「どんぐり日和」  
鴻巣山でマテバシイのどんぐりを拾い、粉に挽いてどんぐり団子を試食します。親子歓迎のゆるゆる里山あそび。

とき：10時～15時

場所：鴻巣山特別緑地保全地区（福岡市南区長丘）

参加費：無料

詳しくは090-7396-6830（志賀）まで

### ●JCVNの仲間を広く募集しています！

あなたの支援が、「いつでも」「どこでも」「だれでも」できる環境保全活動をめざした団体のネットワークづくりの力になります。入会申込書をご送付いたしますので、事務局までお問い合わせください。

- ・個人正会員（¥10,000／年）
- ・個人賛助会員（¥5,000／一口以上）
- ・団体正会員（¥20,000／年）
- ・団体賛助会員（¥10,000／一口以上）

JCVN理事をはじめ、環境保全活動の専門家のノウハウが詰まった会報が、年に3回お手元に届きます！また、メールリストでもJCVNが開催・協力するイベント情報等を随時ご案内いたします。

活動への寄付も受け付けています。環境保全団体のネットワークづくり、リーダー育成支援のため、皆さまのご協力をお待ちしています！

[会費・寄付振込口座]

番号：01760-9-122407

名称：日本環境保全ボランティアネットワーク

### CONSERVATION VOLUNTEERS 11

■発行日：平成27年9月17日

■発行頻度：年3回

■発行：特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク（略称：JCVN）

■事務局：〒810-0022福岡市中央区薬院4-5-2-202

tel/fax: 092-215-3966

e-mail: jcvn@greencity-f.org